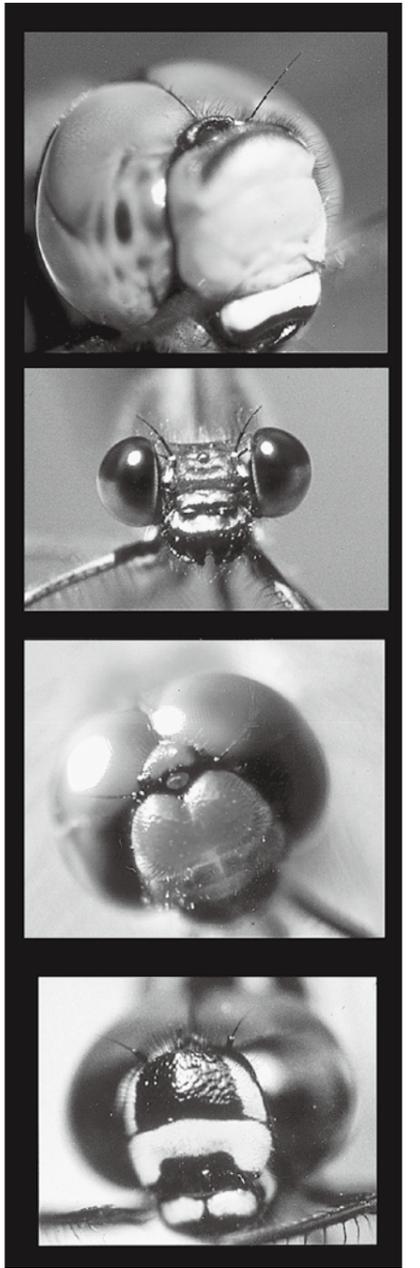


トンボの顔あれこれ



トンボの仕草を写真集に

浅名正昌さん (高2回)

今年3月、伊賀市内のギャラリイで「小さな生き物たち」という昆虫をアップでとらえた46点と伊賀のトンボ全88種の1判の写真展が開かれた。撮影されたのは元教員の浅名正昌さん。定年退職してから趣味で写真を撮り始めた。初めは大台ヶ原の倒木に惹かれ風景写真を撮っていたが、子どもの頃トンボを捕って遊んだ思い出からトンボへ興味移って自分にはその方が、と撮り出す。トンボは目の位置が微妙に違っていたり、種類によって表情も違っていたり、種類によって表情も違っていておもしろい。驚かさずソロリと近づき相手が動けば止まり、また一歩近づき自分が自然に溶け込んで、トンボの仕草の瞬間を撮っている時は本当に楽しい。

01年には『トンボの情景』として写真集を出版。その後、どうせなら伊賀のトンボを集めてみようという12年に『伊賀盆地のトンボーその見分け方』という図鑑を出版した。今まで、伊賀盆地では88種類のトンボの記録がある。ハネビロエゾトンボの生息地の確認、オオサカサナエの産卵地の確認など伊賀盆地のトンボの実態を調査した貴重な本となった。この本の後書きには、「トンボや小さな虫との触れ合いは子どもと心を豊かに育むミネラルなのです」とある。

この間に撮影した写真では、生態を撮ったものばかりではなく、前足を2本合わせた様な形の「おいでやす」(タイトル)や、水に落ちたオオルリボンヤンマをアメンボが引っ張っているようにみえる「葬送」(タイトル)などが教職員展で賞をもらっている。08年には二科展に入選したことも。

浅名さんは、子供の頃トンボ捕りや魚つりに走り回っていた半面、家でレコード鑑賞にふけるようなおとなしい少年だったそうだ。高校時代は放送部のレコードを全曲鑑賞し、夢は指揮者や作曲家など音楽を仕事にしたいということだった。そこで『音楽通論』を読み込み、奈良学芸大学(現・奈良教育大学)の音楽専攻に進む。音楽の教師として尾鷲市の中学に赴任してから、名張市の北中学校で退職まで38年教職生活を送った。

「学校の勉強は無駄じゃない。これからの自分がどう進むかの素を、できるだけ多く身につけるのに勉強も大事です。もっと勉強しておけば、と反省していますよ。若い人達にはもっと教養を深めてほしいと思います。」
写真の他には、ドライブも趣味の一つとか。今もカメラを愛車の四駆に積んで、渓谷や里山・山中へ撮影に走り回っている。そのため、家族からはGPS機能付きの電話を持ってと言われている、と笑った。

(取材 安屋宣子 高19回)

マイホビー



プロフィール

あさな・まさよし さん

- 1933年 旧上野市生まれ
- 1955年 尾鷲市の中学校教諭に
- 1993年 名張北中学校で定年退職
- 1995年 趣味として写真を撮る
- 1997年 伊賀盆地のトンボ調査撮影開始
- 著書 写真集「トンボの情景」(2005年)
- 写真図鑑「伊賀盆地のトンボ その見分け方」(2012年)

同級生交歓

高41回 平井堅くんに“会って”きた

facebookを活用 高32回

Ken's Bar 15周年

平井堅くんのライフワーク、Ken's Bar が今年で15周年を迎えた。そのアニバーサリーイベントとして、5月30日東京・日本武道館でのコンサートの様子が、全国34ヶ所の映画館で中継された。地方のファンには大変有難いスペシャルな企画だ。



平井くんに「会う」ため、同級生4人が津のワーナーマイカルまで出かけた。開演前の日本武道館の神々しい空気は、映画館の大スクリーンからも流れ出ており、それだけで思わず鳥肌が立つ程。登場してきた平井くんへの大喝采、ひとこと言葉を発する度のファンの盛り上がりは映画館でも同じノリで、久しぶりに非日常な世界を堪能した。

長い指をずっと伸ばし、一曲一曲を丁寧に歌い上げる平井くんは本当に美しく、澄んだ声と相まって、4人とも心洗われる思いでスクリーンを見続けていた。この人が高校の同級生やったんやなあ、と嘆息混じりに皆が思わずつぶやいた。でもトークはやっぱり高校の時のまんまやね、相変わらず顔も髪も濃いし……と口々に批評し合ってはちょっと安心したりもした。

昨年、帰省した時に作ったという曲、その名も『桔梗が丘』。平井くんのふるさとへの想いにじわりと感動し、いつか『明治校舎』を聴いてみたいね、と勝手にタイトルを決めて、実はとても期待しているのである。(岡森史枝 高41回)

友達の輪2クラス分に

すべては、東京のMという同期生のメールから始まった。

「米岡さん、フェイスブックで、上高32回のグループを作るから入ってきて」

フェイスブックという名前すら知らなかった私に高いハードルを越えろと要求してきた。彼は、神戸の県立御影高校のグループを参考にして、東日本大震災の前月にこのグループを立ち上げてくれた。

こうして私は、フェイスブックの門を開き、彼の言う「上高32回」まで辿り着いた。そして携帯電話の中の同期生すべてに声をかけた。目標は、学年の2クラス分の90人を集める事。あと3人で目標達成である。震災を経て、他人との絆を皆が大切にしようと思うようになり、50という善き齢を重ねた今だからこそ本当に大切な場所になった。

ここには高校の時には話した事もない同窓生との出会いがある。日々の近況報告、故郷のニュースが飛び交い、一人の悩み事に、みんなで励ましあったり、海外にいる同窓生の近況に感動したり、誕生日のお祝いを言い合ったりする。でも、私は何より、このグループを通して悩みを抱えている人が少しでも元気になってくれたらいいなと心から思っている。

フェイスブックは、友人の投稿にコメントを入れていくうちに、友人の友人と仲良く話が出来ようになる。昨年もそんな友人に、朝の築地の穴場を案内してもらった。同期生が「今日出張の帰りに実家へ寄ります」という書き込みがあれば、地元の同窓生に連絡をつけ、たちまち「プチ同窓会」が開かれる。リアルタイムでその場の模様を仲間に発信。こうして30年余り前の自分達にタイムスリップした時間が持てる。東京に次いで去年は名古屋でも集まった。次は大阪を予定

している。

病気のため卒業が1年遅れた人も仲間に入り、「在学中は知らなかった方々と繋がることができ、身近な話題、読んだ本、田舎の風景などの他にちょっとした悩みも投稿するとみんなが親身になって考えてくれ、アドバイスもくれます。私にとって素直になれる大切な場所です」という。

また、別の一人は、「上高での思い出が多く、中学よりも大学よりも身近な存在。兄も両親も亡くなった。自分の生き方の答えを模索していく中でいるんなつぶやきや悩みを安心してぶつけられる場所が(F B32期)だ。投稿したら誰かが反応してくれる。それが本当にうれしい」という。

個人情報漏れるとか、犯罪に巻き込まれはしないかと心配して参加しない人もいる。しかし、不要な個人情報は載せる必要もないし、怪しい人には接触しなければいい。出身高校に「三重県立上野高等学校」と入力するだけでヒットして、同窓生が見つけたら、友達申請をして承認されれば、グループに入れるという仕組みだ。在京の学年の枠を超えた人たちで「上野高校関東支部」というグループもできている。



出身高校に「三重県立上野高等学校」と入力するだけでヒットして、同窓生が見つけたら、友達申請をして承認されれば、グループに入れるという仕組みだ。在京の学年の枠を超えた人たちで「上野高校関東支部」というグループもできている。

フェイスブックで広げよう、友達の輪！ (米岡広美 高32回)

「仏像を研究することで、その時代を読み解きたい」と語る井上一稔先生は、滋賀県立琵琶湖文化館を皮切りに、東京国立文化財研究所(東文研)、奈良国立博物館(奈良博)そして現在、同志社大学で研究生活を続けられている。仏像(仏教美術史)研究の専門家である。

小さい頃、親戚の家に貼られていた1枚の仏像写真を見たことが原体験であったという。もちろん当時はその仏像が、興福寺の国宝「無著・世親立像」であることなど知る由もないが、ともかくたいへん怖かったそう。そして赤目中学校時代、社会の先生から室生寺の話が聞かれ、無謀にも友達とふたりで自転車で向かった。(あとで学校で問題になったとか)そこで見た十二神將に強い畏怖の念を抱いたこと。この潜在的興味の発見が今に至る原点だったと井上先生は振り返る。

高校時代はもっぱら考古学少年だったそう。当時、近所の古墳から弥生土器が発見されて話題になり、自分も本気で大発見を夢見て、休みの日にはいつもスコップを持って実家の畑を掘りに行っていた。意外にも畑からは弥生土器の破片が「飽きるほど」見つかった。ある日、2種類の明らかに異なる破片が見つかり、大興奮で歴史の橋本俊士先生に持って行ったところ、専門家に鑑定してもらったことになった。結果は「打製石器と縄文土器」と告げられたそうだが、「新聞沙汰になるほどの大発見だと思込んでいた井上少年は、それ以上の展開がなかったことに非常に落胆したという。これは高校時代のよき思い出だろう。

同志社大学に進んで文化史学を専攻する一方で、歴史研というサークルに所属した。サークルの先輩に大学院生が主宰する本格的な研究会に連れて行かれ、そのまま研究者の道を進むことに。子どもの頃の仏像への畏怖と憧憬が、ここで一気にスパークしたに違いない。

仏像研究は、美術というカタチの世界と、宗教という文字(思想)の世界、この両方の領域を勉強しなければならぬのでたいへん難しい。だからこそやりがいがあるのだという。仏像はその時代に崇拝された思想が○○パーセント凝縮されているわけで、いわばその時代の結

晶である。しかもそれに直に触れることができる。カタチから入ることによって、文字だけでは明らかにできなかった新しい歴史世界を切り開き、さらにその世界を広げていきたいと力強く語られた。

そして、思いがけない上高つながりの秘話も披露してくださった。先生が東文研にお勤めだった時、かつておられた高田修先生というインド美術の大学者(著書に『仏像の起源』等)が上高の前身・旧制上野中学の出身だったという話をたまたま知って驚いたそう。東文研にはさらにもう一人、新規矩先生という上中出身の先輩もいられたそう。自分の志した仏像研究という特殊な世界で、郷里の先輩に出会え、どれほど大きな勇気を得たかわからないと振り返られた。

今度の大学生の特徴を端的に表す現象を2つご紹介いただいた。まず、「乾杯がビールではない」という現象。一定



プロフィール
井上 一稔さん
高25回。同志社大学 文学研究科博士課程を経て、1999年から同大学勤務。
【主な著書】
『如意輪観音・馬頭観音』日本の美術312 (1992)
『日本の国宝6 唐招提寺』(編著書) (1997)
『新しい博物館学』(2008)
『新版古寺巡礼京都25 法界寺』(2008)
『新版古寺巡礼京都38 寂光院』(2009)
『新版古寺巡礼京都39 清涼寺』(2009)

キャンパス訪問 同志社大学

仏像研究はカタチと思想の両面から

同志社大学大学院教授 井上一稔さん (高25回)

品である。しかもそれに直に触れることができる。カタチから入ることによって、文字だけでは明らかにできなかった新しい歴史世界を切り開き、さらにその世界を広げていきたいと力強く語られた。

そして、思いがけない上高つながりの秘話も披露してくださった。先生が東文研にお勤めだった時、かつておられた高田修先生というインド美術の大学者(著書に『仏像の起源』等)が上高の前身・旧制上野中学の出身だったという話をたまたま知って驚いたそう。東文研にはさらにもう一人、新規矩先生という上中出身の先輩もいられたそう。自分の志した仏像研究という特殊な世界で、郷里の先輩に出会え、どれほど大きな勇気を得たかわからないと振り返られた。

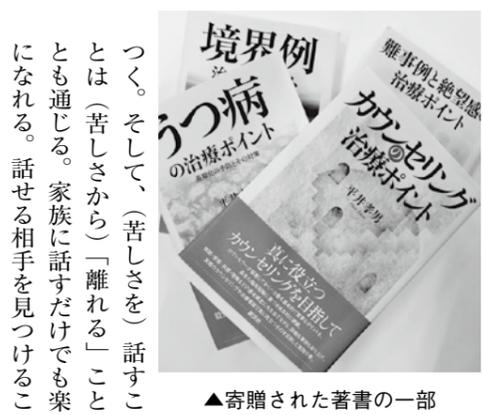
今度の大学生の特徴を端的に表す現象を2つご紹介いただいた。まず、「乾杯がビールではない」という現象。一定

今度の大学生の特徴を端的に表す現象を2つご紹介いただいた。まず、「乾杯がビールではない」という現象。一定

著者に聞く

平井孝男さんは、精神科医として平井クリニックを開業。カウンセリングを中心に治療を行うため、臨床心理士の資格も取り、新大阪カウンセリングセンターも開いている。診察、カウンセリングを通してまとめられた著書も多い平井さんに、現代社会で多くなったと言われる心の病との付き合い方やカウンセリングについてうかがった。

上野高校時代、国語の濱川勝彦先生(現・奈良女子大名誉教授)に影響を受け、小説の世界に憧れを持っていた。当時、教科書に載っていた島崎敏樹氏(精神科医)の文章についての同級生の質問を島崎氏に濱川先生が送ってくれた。それがきっかけで島崎氏が上高に来てくれて生徒の有志で話を聞く機会ができた。精神科医を意識した瞬間だった。



▲寄贈された著書の一部

無理せず不安も受け止めよう

精神科医 平井孝男さん (高18回)

うがいい。だるい、寝られない等の身体状態が改善することで精神もまた健康になる。気持ちに余裕ができることで自分で考えられるようになる。その「良循環」のきっかけを薬で作出す。家族から本人への問いかけも重要だ。本人の調子が悪い時に家族の適切な働きかけは有効だ。病院に来てくれた家族には、自著『難事例と絶望感の治療ポイント』の第9章を読んでもらい、どうすればよいか考えてもらおう。病人に対して、詰問調の質問をせず、何を望んでいるのか、そのためにお互いどうすればいいのか、話し合ってもらおう。それが家族の信頼関係にも結び

横光の病にも関心が

現在、雑誌「仏教」に連載した『仏陀の癒し』、『治療者ユングが学んだこと』を出版準備中で、『夢の治療ポイント』も形にしたい。横光利一を読み返し、彼が胃潰瘍で亡くなったのはなぜだろうと精神科医として好奇心をかきたてられる。もしカウンセリングできていたならどう治療できたのだろう、と考えると面白い、と精神的だ。

平井先生の魅力は、質問を繰り返しながら、その想像力、知識もさることながら、自身が人生を楽しんでいるところだ。患者の苦しさを引き受けながらも、探求を忘れず、楽しむ。趣味は山岳部時代から好きな山登りの他に、テニス、囲碁と多彩で、最近ピアノも習い始め、上高同期のついでに披露したそう。この人生を楽しむ姿勢こそが、心身を健やかにしてくれているのかもしれない。



プロフィール
ひらい たかお さん
1949年旧上野市生まれ。金沢大学医学部卒業後、大阪大学病院勤務などを経て、91年、平井クリニック、新大阪カウンセリングセンターを開業。その傍ら、大阪市立大学生生活科学部、関西カウンセリングセンターなどで治療学の講座を担当。精神科医。心理療法士。大阪経済大学客員教授兼任。

平井先生の魅力は、質問を繰り返しながら、その想像力、知識もさることながら、自身が人生を楽しんでいるところだ。患者の苦しさを引き受けながらも、探求を忘れず、楽しむ。趣味は山岳部時代から好きな山登りの他に、テニス、囲碁と多彩で、最近ピアノも習い始め、上高同期のついでに披露したそう。この人生を楽しむ姿勢こそが、心身を健やかにしてくれているのかもしれない。

(取材 松本ひとみ 高52回)

夫妻の熱い思いが新しい活動に

穂積 亨さん(高8回) 澄子さん(高9回)

JR鳥ヶ原駅前に穂積澄子さんが代表を務める「伊賀・鳥ヶ原おかみさんの会」の運営する地産地消食堂「夢の道」がある。この会は、澄子さんが「鳥ヶ原のよさをより多くの方に知ってもらいたい」という思いで03年2月に立ち上げたNPO法人。「地産地消大賞」や「地域思いビジネス発表会奨励賞」を受賞。この食堂の他に、子供たちに紙芝居や昔の遊び体験、調理実習を通じて、家庭や地域みんなで子育てをする社会の大切さを教えている。

また、使われなくなった田畑で無農薬栽培を行い、「おやきじやがもち」「ほんのりケーキ」といった特産品を開発。11月には、東京渋谷の「ヒカリエ」にも出品予定だそう。



▲若者たちの手作りのウッドデッキで語り合う夫妻

この食堂の奥は敷地面積900坪以上の「穂積製材所」。その一角に山崎亮氏(京都造形芸術大学教授)の経営する「Studio-L」というコミュニティデザイン事務所があり、全国からまちづくりプロジェクトに参加したい学生や若者が集まってくる。今まで延べ3千人の若者がこの地を訪れ、中には家族でここに移り住んできた人もいる。

きっかけは、06年に伊賀で開かれた「地域を語り、地域を遺す」というシンポジウムで山崎氏の講演に共感した澄子さんは「息子は考古学の道に進み、

夫も高齢になってきたので製材所を閉め、長年お世話になった鳥ヶ原に恩返しをする意味で跡地に公園を造りたいのでお手伝いいただけませんか」と声をかけた。

「まだ現役のような製材所を潰すのはもったいない。豊かな資源や環境を生かした別の地域貢献の方法を考えよう」と山崎氏は考え、穂積製材プロジェクト、略して「ホヅプロ」が誕生した。代表には夫の亨さんが就任。まず着手したのは「木工のDIY工房の開設」だった。DIYとは専門業者に任せず、自らの手で生活空間をより快適に工しようとする。そして、人を呼ぶ為には寝る場所が必要だと、関西の建築家6人に依頼し、個性的な6種類の部屋、「寝床」を、製材所の倉庫の中に学生達と一緒に造った。

12年9月、2日間に亘るイベントが開かれた。1日目は地元林業家を先生にした森林学習。愛情を持って木に接して欲しいという願いのこもったプログラム。2日目は、デンマーク人のイェンス・イェンセン氏を招き、「手作りの家具の楽しさ」を山崎氏と対談。午後は、自分の作りたい家具を作る木工教室。インターネットを中心に募集したところ、いろんな思いを持った人たちが集まった。

山崎氏は「穂積製材所を、木と地域を楽しむための一大アミューズメントにする」という。木材の国内消費量は7200万㎡に対し、国産材の供給量は2000万㎡足らず。鳥ヶ原は、森林が地域面積の8割を占め、その内の8割は人工林だ。穂積夫妻は、伊賀の材木を少しでも世に出したいと考え、種類の棚を作り、誰が来ても分かるようにした。

先代が長年鳥ヶ原村長を務めていた時、「人づくりは村づくり。村づくりは人づくり」と訴えてきた。澄子さんは、今になって先代の思いが手に取るようにわかるという。

懐かしの先生を訪ねて ⑫

社会では

協調性が大事だよ

泰羅 靖夫 先生

「源氏物語」の「帚木」は女性の品定め。悪童どもは修学旅行の夜に「恋人にするなら〇〇、妻にするなら□□」などと話し込み、「早く寝ろ」と叱られたものだ。現代でも「お嫁さんになりたい女優」とか「上司にしたい人」とか、この手のアンケートは多い。卒業生に「上野高校で最も先生らしい先生は？」のアンケートを取ったら、泰羅先生は



ととは先生は無縁だったと思われる。数学の教師になったのは旧制上野中学校に入学して数学の渡辺勉先生に、模範答案として褒められたことがきっかけ。学制改革のため3年目は地元の新制中学で送り、上野高校を再度受験して3年間を過ごした。家を継ぐ立場だったので、教員の道を志した。初任地は錦中学校(現・大紀町)だった。3年後に上野高校へ。担任や生徒指導、教務などの仕事を担当して20年。その後の7年間は県教育委員会指導主事、高校教育室長を歴任し、そ

「商売辞めようと思った時には、こんな人生が待っているなんて夢にも思わなかったな、お父ちゃん」「そやな」と、二人は顔を見合わせた。「人との出会いがどれほど大切かつ

て事がよくわかりました」と澄子さん。鳥ヶ原を、伊賀を、三重県を元気にしようというお二人の前向きな気持ちが多様な地域興しの形になった。(取材 米岡広美 高32回)

若手画家 帰国して『ふるさと』を描く

岩名泰岳さん(高57回)



伊賀市鳥ヶ原で5月25、26日に絵画とトークの企画展「郵便夫(ポストマン)と森の星」が開かれた。主催は地元若者グループ「鳥ヶ原村民芸術」の代表が画家の岩名泰岳さんだ。彼は、昨年、恵比寿のMA2ギヤラリー、今年は新宿伊勢丹や銀座三越と東京の会場にも出張した若手画家である。

いま 鳥ヶ原が熱い

岩名さんが、絵の道に進もうという気持ちも明確にしたのは、中学3年生のこと。市町村合併で鳥ヶ原村が無くなってしまった。上野高校で美術部に入って描き始めたのは、故郷鳥ヶ原村の自然だった。そんな折、伊賀市出身の著名な画家の故・元永定正さんと出会い、大阪の教室で指導を受け

るようになる。「元永さんの絵は柔らかくて優しいイメージがあるけれど、絵のことに関しては『ダメなものダメ』と、とても厳しかった」と当時を振り返る。成安造形大学に進み、その後、元永さんの推薦でドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミーで油彩画を学んだ。そこに元永さんの計報が届いた。

の間に名張西高校の創設に携わられた。そして校長として上野商業高校へ。最後の4年間は母校・上野高校の校長として体育館の改築にも尽力された。平成18年には瑞宝章を受章された。「何をやるにせよ、どんな職業に就くにせよ、組織にあるには協調性が大切だ」とのお教え。基本方針を共通認識し、力を合わせて努力することはどの職場でも同じだが、かつての部下には耳の痛いお言葉。勤め帰りに先輩教師と酒を酌み交わしながら、学校運営や授業について話したことが力になったと懐しく語られる。「いろいろな人に支えられてやってきた。感謝の気持ちを忘れないことが大切」と単身赴任だった県教委時代に家庭を守ってくれた奥様を見やる。

野球部の顧問としてノックバットを握り、サインを出したこともあったそう。私が生徒の時、校内球技大会の優勝クラスは教員チームと対戦できそう。2年後の2012年5月、ドイツを離れた。「帰ろう」と強く決意させたのは、東日本大震災だった。被害の様子をドイツでも大きく報じられ、日本での報道よりも深刻な情報もあつた。それを知り故郷への想いをほっき感じた。震災がなければ、まだドイツにいただろう。帰国後、地元で創作拠点を探している時、今回の会場である「アトリエ河口」を紹介された。鳥ヶ原村郵便局で働きながら絵を描き続けた河口重雄さん(高14回)が手作りで建てたアトリエだったが、完成からほどなく、河口さんは62歳で亡くなった。10年近くの間、草に埋もれていたアトリエが岩名さんとその仲間たちの手で蘇った。「元永さんも旧制の上野商業学校を出て独学で絵を学んでこられたし、僕も元永さんに会うまでは自分で描いていた。そんな共通点はあるが元永さんはずっと世界へと向かっていって、僕は逆に外国から戻ってきたんです」。せっかくだとドイツにまで行ったのに、帰ってきたのが東京や他の都会ではなくなぜ鳥ヶ原なのか?と、問われることもあつたがしかし、迷いはなかった。元々絵を描き始めたのは、ずっと自分の

た。若手の先生方のソフトボールチームで颯爽とされた姿を思い出す。近年は酒も煙草もやめたそう。区長など地元の役職を一通り終え、畑仕事や植木の剪定に汗を流す日々。趣味は週に2回ほど練習に出かけるランドゴルフで、平成16年には伊賀市大会で優勝という腕前。ゴルフは理系の頭が必要かもしれない。地面の傾きや距離に対してどれほどの強さで打てばよいか、先生は即座に計算されているのだろう。30年ほど前、横光利一と同級で海軍主計大佐だった父君に横光の中学生時代をうかがったことがある。成績が学年トップだった老紳士は「横光は軟派でしたな。私等は勉強してましたから」の一言だった。そのDNAは先生に見事に受け継がれたのだ。退職記念に植えたという自宅近くの桜は10メートル以上に成長し、青々とした葉を周囲に伸ばしていた。(取材 番條克治 高21回)

ゆるキャラいが★グリオ頑張る!

いが☆グリオ君は2008年6月24日に誕生した。年の取らない小学校3年生(9歳)のいが忍者の男の子。特技はダンスと大食い。伊賀上野が大好きで、ちよっとメタボだけどそのお腹に伊賀の美味しいものと夢をいっぱい詰めている。



▲お絵かきソング大会 高41吉永昌平組大集合

2008年誕生してまもなく、インターネットの人気投票で月間1位を獲得し、テレビ東京の「TVチャンピオンゆるキャラ王選手権」では、当時全国200体から選ばれた中、決勝戦まで勝ち進んだ。(ちなみにその時の優勝者は、明石大橋のワタル君。)ひこにゃんや、せんとくんとともに、第一次のゆるキャラブームの火付け役である。その年の10月、笑っていいともに出演を果たし(この4年後2012年に2度目の出演)、短期間で全国に名を知られるようになった。現在全国行政自治体がこぞゆるキャラに力を入れはじめ、第二次ブームが起きている。(ちなみに、熊本

寄贈図書紹介(敬称略)

- 『伊賀盆地のトンボくその見分け方』 浅名 正昌(高2回)
『北田一正詩集』 北田 一正(高6回)
『上野城絵図集成』
『藤堂高虎公と遺訓二百ヶ条』 福井 健二(高6回)
『なぜ違う「アウトターとインナー」インナーパターンの修正の仕方』 芦田 美和(高13回)

- 『若者へのメッセージ』 竹野 昇(高18回)
『カウンセリングの治療ポイント』
『うつ病の治療ポイント』
『境界例の治療ポイント』
『難事例と絶望感の治療ポイント』
『心の病の治療ポイント』
『癒しの森』
『キットではじめる マイコンボード』 川口 昌良(高27回)

いま伊賀がおもしろい
ふるさと伊賀
なう

のくまモンなどは県がプロデュース「ゆるキャラ」ならぬ「売るキャラ」としてまちづくりを担う独特の文化を確立し、時代を作っている。彼(いが☆グリオ君)と一心同体で、マネージャー兼プロデューサーである榊太基君(高41回)は、同級生のイラストレーター伊藤尚美さんといが☆グリオのお絵かきソングを作るなどして、一緒に盛り上がっている。

TV露出が増え、今やゆるキャラ戦国時代に突入した感があるが、実力、人気が本物のいが☆グリオ君は老舗の底力を発揮して伊賀上野の地域おこしに日夜頑張っている。



▶十六茶CM 新垣結衣さんと
▶スキアルトCM 小林星蘭ちゃんらと

元校長旧宅・赤井邸 改修、公開へ



上野忍町、中の立町通りで武家屋敷の面影を残す住宅として注目されている「赤井邸」。伊賀市は一昨年、赤井家から土地、建物の寄贈を受け、2015年4月の一般公開に向けて耐震改修工事を始める。この赤井邸は、上野北高校、上野高校の初代校長を務めた故・赤井直通氏の私宅であったことでも知られている。通りに面した長屋門、母屋、蔵などに囲まれた庭にはクロマツ、モミノキなどの大木が並んでいて、登録文化財に指定されている。改修後は、市民向けの展示室や多目的トイレ、観光情報コーナーも設置される。既に公開されている武家屋敷「入交家住宅」(元教頭旧宅・上野相生町)と共に観光スポットとして期待されている。



上野市駅前がリニューアル

伊賀市の玄関、伊賀鉄道上野市駅前の再開発工事が完成間近になっている。上野産業会館の跡地はそれまでの駅前ロータリーと一体化した広場と駐車場に整備される。駅前のシンボル、俳聖・松尾芭蕉の銅像は既に従来の位置から約45m南西に移動して新調された台座に立っている。駅前全体は今年の11月には竣工の予定。産業会館と商工会議所ビルの後継ビルとして昨春オープンした「ハイトピア伊賀」の5階の展望ロビーからは駅前、市役所、お城などが一望できる。



名張駅前に乱歩の像



「怪人二十面相」などで知られる作家、江戸川乱歩(明治27年~昭和40年)の等身大のブロンズ像が近鉄名張駅東口に建てられた。名張で生まれた乱歩(本名・平井太郎)を顕彰するため、名張ロータリークラブが創立50周年記念事業として寄贈したもので、4月7日の除幕式でベレー帽をかぶった乱歩晩年の姿がお目見えした。名張駅には、旧市内に面した西口前ロータリーに、能楽の祖、観阿弥の少年時代の像があり、名張の歴史文化のシンボルである人物が駅の両サイドで市民を見守ることになった。

「HAQUA ホール」イベントメモ

上野高校の明治校舎の一室を同窓会が協力して改装した「HAQUAホール」は昨秋のオープンから下記のような催しに活用されている。使用規定に従って卒業生の皆さんにもミニコンサート、作品展、講座などに利用してもらえる。【 】内は主催者

- 平成24年
◇オープニングイベント 10月13日(土) (写真)
◇音楽Ⅲ選択生(杉本奈穂・河内楓)「連続ピアノ発表会」
①10月29日(月) ②10月31日(水) ③11月2日(金)
【上高音楽科】
◇「上野東小学校との交流会」12月7日(金)【上野高校】
平成25年
◇音楽Ⅲ選択生(河内楓)「連続ピアノ発表会」
①2月13日(水) ②2月20日(水) 【上高音楽科】
◇新日本フィルメンバーによる「ドリームコンサート」
2月19日(火) 【上野高校】
◇卒業生による「クラリネットアンサンブルコンサート」
3月24日(日) 【卒業生】
◇総合学習音楽選択生による「合唱発表会」
6月13日(木) 【上高音楽科】

横光利一の人と文学を偲ぶ
第15回「雪解のつどい」
3月17日、横光の誕生日に開催。会場・伊賀市柘植公民館。
☆母の郷里、柘植野村区の顕彰会事務局 局長・前田明伸さんが「横光作品と柘植野村」の題で報告。昔を知る人からの聞き書きをまとめ、初期作品に投影されている地元の地形や建物を作品と重ねてスライドの映像を用いた。
☆「南北」の朗読。このメインプログラムは伊賀弁の会話を実行委員5名が登場人物に扮して熟演した。その上、テレビ局アナウンサーから伊賀市長に当選した岡本栄氏の朗読参加に注目が集まった。(写真)おそらくそのために参加者が過去最多の200名を超えた。

☆「南北」の解説。実行委員会の番條克治委員が、作品の分析と柘植との関
この催しは、上野と柘植とで会場を交互にしている。今回は柘植会場でもあり、内容がフルに「横光ゆかりの柘植」を印象づけるものとなった。
次回は、2014年3月15日に上野市駅前新施設「ハイトピア伊賀」で、横光利一文学会との合同開催を予定している。



横光が小学校時代に住んだ貸し家の跡地に地主の梅田卓氏が造成したものの。「笑はれた子」に「跳ね釣瓶の井戸」が登場する。

今年もやります! 開放講座 テーマは「芭蕉」
10月5日(土)「芭蕉さんの不思議」 講師 沢田喜久男さん
10月19日(土)「尼寿貞つてだれ?」 講師 北出 栢夫さん
10月26日(土)「芭蕉俳諧について」 講師 山村 俊夫さん
11月2日(土)「芭蕉と蕉門伊賀連衆」 講師 杉本 光祥さん
11月9日(土)「笈の小文について」 講師 馬岡 裕子さん
※受講のお申し込みは、同窓会事務局へハガキで(宛先は本誌1面右上に表示)

各回のつどいから

上中会 第22回総会

6月2日、会員46名出席のもと、ヒルホテル・サンピア伊賀で上野高等学校同窓会会長左橋佳三氏、上野高等学校校長土肥稔治先生をお招きして盛會裏に開催されました。総会に先立ち物故者の方々に黙祷を捧げ心よりご冥福をお祈りいたしました。ご来賓からは種々の母校の同窓会活動、学校教育の現状をいただき、いつもながらご丁寧なご祝辞を賜りました。

上中会は「自強不息」の厳しい校訓のもと、戦前、戦中、戦後と波瀾万丈の世代を乗り越え生き抜いて来られた卒業生4300名で21年前に結成発足されましたが、現在では会員数は



今後の会の運営について決断の時が来たのではないかと考えられます。

900人に満たない状況です。一番若い最終49回生もはや80歳を迎え、年々会員数が減少の一途を辿っている現状は寂しい限りです。

総会議事終了後、永年総会出席功勞者2名の方に記念品を贈呈しました。記念講演会では講師として稲田友章氏(中34回)に『私の趣味、俳句、短歌、川柳について』の演題で、長年に亘って詠まれた秀作の数々、それも主要な新聞に掲載されたものばかりを解説され大変興味深く拝聴しました。最後にコーラスグループ「サラダ」による合唱で、伊賀市市歌の他、故郷の四季、ひばりの名曲など昔懐かしい古き良き時代の歌の数々を聞かせていただき、最後に恒例の上中校歌を声高らかに合唱、親睦の場を盛り上げました。懇親会に移り、ご出席の最長老の藤原長録氏(上中33回、96歳)の力強い乾杯の音頭で宴会に入り会員相互の昔の思い出話や、近況について花を咲かせ、お互いに杯を交わしながら時の経つのも忘れず、「来年も元気でまた会いましょう」の合言葉で三々五々帰途につきました。

(会長 佐賀薫 上中45回)

阿山32回「十八の会」



▲5月30日10時から上野天神宮で、88歳米寿の祈禱を受け、ヒルホテルサンピア伊賀で懇親会を開きました。

阿山19年入学(幾久友会) 最終同窓会

この会は昭和19年入学したので一九(イク)を語呂合わせして、いつまでも幾久しく友達でありたいと幾久友会としました。

太平洋戦争最中の昭和19年に阿山高女に入学し、上野北高校二年に編入しました。三年の時には学区制により転校した人や高二で修了する人も多く卒業はまちまちでした。

同窓会は女学校入学年を基盤にして昭和47年から2年毎に、平成元年からは毎年開催し、昨年5月には新緑の美



しい名張青蓮寺レークホテルに47名が出席しました。高年齢となり物故者が57名となつたのを機に今年5月19日、ヒルホテル・サンピアでの会が最後のつどいと決まりました。



喜寿を迎えて「セブン会」 上高7回

7回卒「セブン会」は、母校百周年に還暦を迎えた平成10年以降隔年で、各地持ち回りに開催。今年は5月23日、喜寿を祝う男子27名、女子21名の48名が、西の迎賓館と称される奈良ホテルに懐かしい元気な「好奇(心)高齢者」が集いました。お互いに年を重ねて、感慨深いものがありました。

(報告・高橋・稲葉)

上高25汽車通会の集い

昭和25年卒業の私共は、戦中戦後に、汽車、電車を利用して通学し、色々苦労を共にした同期の仲間会でありますが、昭和49年に発足、伊賀を主とし、伊勢、奈良、大阪等で回を重ねて参りました。

第22回の今年は、京都、大阪の在住の者が世話人となり、京都平安ホテルで宿泊を兼ねて行うことに致しました。伊賀、伊勢、奈良、京都、大阪から28名が参加、3月31日の懇親会は特に伊賀を離れている者にとっては、久しぶりの顔合わせであり、悲喜交々の話題は尽きず、又、郷土愛、母校愛に溢れた感激は一方ならず、懐かしく、楽しい会でありました。



出席者は、全員既に傘寿を超えており、会員の物故者は26名となりましたが、この方々を偲び、感謝の念を持ちながら、残った者が、元気でいつまでもこの会を続けていきたい、との思いでいっぱいでありました。

(世話人代表・山路章 高1回)

上中昭和21年入学

青葉、若葉の萌える名張市赤目の風情あふれる湯元赤目「山水園」で、13回目の同期会を開催いたしました。(出席者26名) 私共は今年傘寿を迎えます。傘寿は長寿の心得で「なんの未だ未だ役に立つ」と言われています。

まだまだ現役で頑張っておられる方、各地域で活躍されている方も沢山みえます。一方、参加出来ない方も年々

高4回 (昭和28年卒「仁和会」)

戦前に出生し、戦後の米軍占領下に国民学校から新制中学校へ。そして誇り高い白亜の明治校舎での高校生活と苦難な時代に学びを終えました。

クラス会は長く音沙汰なく、昭和45年、有志の尽力により自由加入の形で

「仁和会」結成の呼びかけ、同期300名の内、250名の賛同を得て発足となり、第一回総会を上野観光ホテルで華々しく開催できました。

平成25年6月9日、第14回総会・懇親会をサンピア伊賀で71名の参加を得

て盛大に催すことができました。傘寿を迎えただけに多少の老いを感じながらも、楽しく賑やかに旧交を温め、話と唄に花を咲かせ、皆さん元氣瀟々たる姿は60年前と変わりませんでした。



今後は狭い範囲での集いとなりそうですが生涯現役を維持することを約束し合いました。

参加された元氣な方の意見は、健康維持に毎日歩き、栄養、運動に心がけ規則正しい生活を続けるとの事でした。私達幹事一同皆様との交歓の和が広がる「セブン会」として続けて行く努力を誓い名残を惜しみつつ散会となりました。

(本会君子)



それぞれ同窓会の同窓会を合同開催することとし、めでたく傘寿を越え第11回目の同窓会を昨年11月3日に上野フレックスホテルで盛會に行うことが出来た。

(葛原寛)

高8回

梅雨入り宣言直後の6月中旬に東京で開催しました。2年毎に各地区の持ち回りで担当して16回目を数えます。今回は12年前の熱海に続いて2回目の関東地区開催です。

懇親会は、「2年ぶりの再会」を楽しむことを第一に、青春時代の思い出話や日頃の生活を心ゆくまで語り合っていたため、会場は、夜景が美しい隅田川沿いのリバーサイドホテルに。

翌日は「東京観光を楽しむ日」「東京スカイツリー」「お台場・レインボーブリッジ」など新しい観光スポットが目白押しですが、隅田川の爽やかな風景を楽しんでいただく「隅田川クルージング」に。この計画で256通の案内を出したところ返信は211通で、恩師の古山先生のご来駕を含め32名の参加となりました。年齢や体力面から遠路の上京は少し無理な面があったのでしょうか。でも、懇親会が始まれば皆さんお元氣そのもので少人数の寂しさなど吹き飛んだ感じでした。あちこちでグループを作り、話が弾みました。11階の懇親会場から「隅田川の夜景」を眺めると心が休まります。北側は「浜離宮恩賜庭園」から「築地市場」へ、さらに奥にはライトアップされた「東京スカイツリー」がキラキラと輝いています。南には「お台場とレインボーブリッジ」、さらに「横浜」の夜景が大きく広がっています。あつという間の一次会から楽しい歌の広場の二次会へ、少人数でも同期会はいいものだ改めて感じた夕べでした。

第20回「これの会」

「これの会」って何？

それは、上野高校第20（に・れい）回卒業生（昭和44年）の同窓会の愛称です。今まで、5年に1度同窓会を開いてきました。還暦を過ぎた頃、「先が短くなってきたため、3年に1度開くことにしようよ」との声が多くなりそうすることにしました。還暦を過ぎ、「親の介護中の人」「生活リズムが変わり戸惑いの中の人」等、これまでと違った話題で盛り上がりました。また、一

高13回

翌日は、少し蒸し暑い日和でしたが「隅田川クルーズ」を楽しみ、次回は奈良・生駒地区の方に託して浅草雷門前で解散しました。（文責 岡町平雄）



3年ごとに開いている普通科同窓会を、昨年11月17日、料亭三田清で開催しました。平成24年は、私たちにとって卒業後50年目の節目に当たり、遠くは札幌のMさんも馳せ参じてくれて、54名の懐かしい顔が揃いました。

第一部は母校訪問。あいにくの小雨の中を正門前に集合。殆どの参加者は50年ぶりの母校とあつて感無量の様子。精巧に修復された明治校舎に感嘆し、残されているHR教室や中央廊下、横光記念室を見学後、入学時のクラス写真にならつて、正面玄関で記念写真を撮り、それぞれが若き日々を思いを馳せました。

第二部の懇親会では、古希を迎えての生きがいや趣味、特技を語りあい、同好の輪を広げて大いに盛り上がりました。ゴルフ好きのS君たちは早速「上高三七ゴルフ会」を結成。今では女性を含む15名が加入して、毎月ゴルフ場でミニ同窓会を楽しんでいるとか。Y君のリードで校歌、応援歌を大合唱後、別間の二次会会場に移動。予想以上の

級年下の21回同窓会も同日・同会場。隣の部屋で行われており、思わぬ交流もできました。

毎回100名前後の出席者があり、久しぶりに会うと、「あの時あんな事をしていたなあ。」と、「昔話に花が咲く」楽しい時間が流れます。時々話のつじつまが合わなくなると、年齢の



▲校歌熱唱のひとつ

参加に、まさに膝つき合わせての一層のぎやかさ。H君は持参のスケッチ帖を披露。一週間後のNHKの自慢伊賀市大会に出場予定のN君は、予選通過を確信して参加曲「歩」を熱唱、やんやの喝采でした。暮れなすむ頃、笑顔、笑顔のうちに終宴。名残を惜しみながら、互いの健康と次回の再会を約して帰路に着きました。（幹事 西口 光）

毎日が同級会 高21回

平成24年6月5日に京都「菊の井」で開いた還暦同窓会は前号報告した。それから半年後の11月3日から一週間、我々は伊賀市内一円で「毎日が同級会」という経験をするようになった。「大人のクラブ活動」といってもいいかもしれない。男性は出身地域ごとに分かれてポスター貼りや演説会の準備、片づけ、道案内。女性は電話当番、あるいは本部での接待などに汗をかいた。懐かしい顔は遠く横浜や大阪からも陣中見舞いに来てくれた。結果が予測できない不安と熱意が市民に届くことへの期待が交錯する日が続いたが、高校の3年間で培った絆の重さと友情のありがたさを改めて感じた日々であった。（番條克治）

還暦同窓会 高第22回

平成24年8月12日に、上野高校第22回卒業（昭和46年3月卒）の同窓会を、同級の玉置君の「赤目対泉閣」で開催しました。

せいにして、また、笑いの種になりました。同窓会の案内状が届くと「心浮き浮き」しながらその日をじっと待っています。その期間がまた楽しいのです。

また、以前から実施しているバス旅行を今回も予定しています。男女あわせて20名が三河地方へ行くことになっています。とても楽しみです。まるで保育園児か小学生の気持ちです。今後「これの会」が末永く続き、みんなと会える事を楽しみにし、健康管理に十分留意した生活を送りたいと思います。（これの会 一会員）

東京支部

還暦の年にあたり、約70名が集まりました。記念品として、伊賀焼を営む宮本君に校章を焼付けたマグカップを作ってもらいました。

恒例の同級生が提供した品の抽選会、クラス毎に写真撮影、思い出に花を咲かしている内に時間が過ぎ、最後に皆で、井上君のギターで高校の時は

15回を迎える東京支部総会・懇親会（隔年開催）は昨年11月11日（日）八重洲富士屋ホテルで、伊賀から左橋同窓会会長、土肥校長先生他のご出席をいただき、支部会員95名の参加のもと盛大に開催されました。総会では新支部長に井上浩行さん（高12回）が選出されました。

講演会では百本豊嗣さん（高3回）に「初代支部長 高久慶一さんが画いた「戦災後の東京」選」と題してお話し頂きました。高久甚之助さん（中1回）のご子息の慶一さん（中25回）が敗戦直後の東京の風景を画いたスケッチとその場所の「いま」をカメラに収めた写真と比べながら、スケッチ画に添えられた文章と現在の変わり様をユーモラスにお話し下さいました。また、百本さんが地域誌「伊賀百筆」

名古屋支部

平成24年11月21日に懇親会兼忘年会を名古屋市栄で行いました。案内は役員会で決定した平成21年度以後に卒業した新会員67名を対象に発送しました。参加者は役員を含めて11名。高校時代と今との違いの話題で大いに盛り上がりまし

た。また、和やかな雰囲気の中で役員が勤務する会社の就活についての質問もありました。名古屋支部の総会開催は



やった「今日の日はさようなら」、「遠い世界に」や、「校歌」を歌っている内に、予定の時間が過ぎました。場所を変え、二次会ではカラオケで当然、昔の歌を皆で楽しく歌い、語り、時がたつのを忘れませんでした。次回、3年後の再会を約束し、散会いたしました。（安場 豊）

（22号）に書かれ、当日の参加者に配布された「三火会、上高同窓会東京支部の源流をつくった先人達」の抜き刷りの残部があります。ご希望の方は東京支部事務局までご一報下さい。

懇親会は恒例の故里の景品が当たる福引抽選会が行われ、目玉景品が引き当てられる毎に歓声が上がりました。景品をご寄付戴きました方々には御礼申し上げます。恒例の新卒業生歓迎会は6月9日

京阪神支部

毎年5月の最終日曜日に開催の支部総会が、本年も5月26日例会会場である大阪天満橋の大阪キャッスルホテルで開催されました。本部から左橋会長、同窓生でもある土肥校長、福井事務局長を迎えて、この10年間では最多の50名が参加しました。6

隔年毎のため、今回は平成26年6月に開催予定です。そのため、現在「上高かわら版」第三号の発行準備を進めています。昨年の総会、講演会、懇親会の様子を掲載し、参加出来なかった会員の皆様に当日の雰囲気を紹介いたします。土肥校長先生からも投稿を頂いており、来年の開催日時、講演者の依頼も順次役員会で決定して、それらも掲載します。第三号の発行は平成25年6月末を予定しています。（今年卒業した新会員の皆様にもお送りします）

また、今年末も新会員に呼びかけて懇親会兼忘年会を計画します。是非、大勢の皆様参加をお待ちしています。各種行事の連絡事項は「三重県立上野高校同窓会・名古屋支部」のホームページにも掲載します。参考にしてください。（支部長・浅葉宝明 高17回）



▲忍者姿の岡本市長を囲んで（佐藤修さん提供）

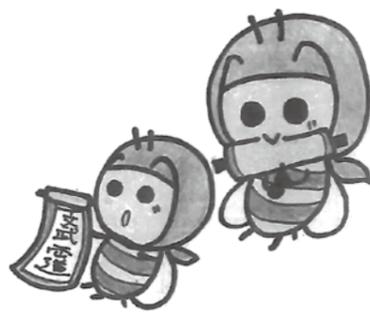
（日）（毎月6月）第二日（日）に開催しました。また、好評の東京支部会報「伊賀の友垣」の今年号（24号）は10月1日発行予定です。これらの支部活動に加え、1月19日、20日に開催された「NIJIAフェスタ in 東京ミッドタウン」にも参加し、岡本栄伊賀市長をはじめとする忍者姿の一行を歓迎しました。（写真）（東京支部事務局 中森建夫 高14回）

名以上出席者の卒業回は、高2回と高7回生でした。会務・会計報告等の総会議事のあと、昨年11月の伊賀市長選挙で新しく市長となられた岡本栄さん（高21回）が「市長となつて半年」と題して講演されました。私も京阪神地区在住者には、「関西テレビ」夕方のニュースなどで見なれた顔のアナウンサーから、投票総数の6割を獲得して伊賀市長への突

然の大転身という事で、その話に興味津々。行政未経験者にかかる重圧を乗り越え、さすがに元アナウンサー笑顔絶やさず、「透明性のある、しがらみのない政治の実現」を目指し、具体的には「ムダのない財政運営や地域医療の再生など」市民目線に立った「これからの新しい伊賀市」を築く意気込みを語られました。また、講演の終了時間も事務局予定の時間にピッタリで、「さすが!!」と感心した所でした。

後半の懇親会では、互いに一年振りの再会で故郷を懐かしみながらのまたとない楽しいひとときを過ごしましたが、ここでも岡本市長は積極的にテーブルを回り、話に花を咲かせていたのには、「さすが!!」と、再度感心させられました。（支部長・百本 惇晃 高7回）

上高にも「ゆるキャラ」誕生



▲「ぶんぶん」です。ヨロシク。

時世だが、この度上野高等学校にも「ゆるキャラ」が誕生した。名前は「ぶんぶん」。忍者の格好をした蜂のイメージのキャラクターで、手には「文武両道」と書かれた巻物を持っている。

今年、4月に教務・総務部から「ゆるキャラプロジェクト」の発案があり、生徒会執行部と相談を進め全校生徒にアイデアを募ったところ、40点の応募作品が集まった。その中から上位3点が生徒会執行部により選出された。その後、各クラス・校内に掲示、5月29日に全校生徒・教職員で「総選挙」を行い、「ぶんぶん」が一位に輝いた。6月

在校生のみなさんへ

上野高校を卒業される時に入学していただく同窓会は、卒業後も同期生同士の交流はもちろん幅広い年代の先輩、後輩の皆さんのつながりを支援する活動をしています。5面に掲載の開放講座や「雪解」のつどい、左下の記念講演会は現役上高生の参加も大歓迎です。また、伊賀から離れても東京、名古屋、京阪神の各支部の活動に参加していただけます。左の記事のように、東京支部は関東圏に進学・就職した人のために毎年6月に歓迎会を開いてくれます。

東京支部新入生歓迎会に参加して

伊賀から約5時間。都会での生活に夢と希望を抱き、約10名が関東圏に進学した。その5時間の距離が、上京したての頃は遠く果てしない距離に感じられたことだろう。私も東京で大学生を送ったが、上京当初の期待と不安をまるで昨日のこのように覚えている。希望と期待に胸を膨らませ、見るものすべてが輝いてみえるのと同時に、どこを行くにも少し緊張し小さな冒険のように感じていた。音、色、匂い、街ゆく人、そのすべてが特別なものを感じられたものだ。

久しぶりに会った彼らは、2カ月の東京生活で少し大きくなっていった。少し緊張しながらも、都会での新生活と将来への希望や期待に瞳を輝かせていた。大事なものはこれからだ。東京で多様な出会いを経験し、多くの情報、考え方に触れ、自己を鍛え確立していった。そして夢を実現して

ライフネット生命・出口さん 後輩に夢を語る

10月30日、一年生対象の職業体験講演会の講師として、ライフネット生命株式会社代表取締役社長の出口治明さんが来校されます。

出口さんは1948年生まれ。上野高校を経て京都大学法学部を卒業、日本生命保険に入社し、ロンドン現地法人社長、国際業務部長など歴任されました。退職後、2008年にライフネ

5日の体育祭で結果発表が行われ、生徒会執行部の手作りの旗に描かれた「ぶんぶん」が全校にお披露目された。作者によると「ぶんぶん」は「上高生を除くささえている忍者。いつも持っている巻物には、上高生へのアドバイスが書かれている」そうだ。これから、「ぶんぶん」は学校案内のパンフレットや校内の印刷物のイラストとして、また学校行事のマスコットなどとして活躍する予定だ。いつもタイムリーなアドバイスを上高生にしてくれることだろう。

(教諭 中村求仁子 高25回)



▲前列は今春卒業した“新入生”のみなさん (6月5日)

いつてほしい。そのためにも、今回先輩方と出会いお話を聴けたことが彼らにとって貴重な経験となった。(旧担任代表 滝 美紗都)

平成25年度(2013年) 総会のご案内

とき 10月6日(日)

14:00~ 記念講演 15:00~ 総会 16:00~ 懇親会(会費3,000円)

ところ 上野フレックスホテル

伊賀市平野中川原544-2 ☎0595-21-3111

記念講演 (一般公開)

講師 北出 明さん(高13回)

演題 「命のビザ、遙かなる旅路 ~杉原千畝を陰で支えた日本人たち~」



講師プロフィール

1944年、上野東町生まれ。1966年、慶應義塾大学文学部仏文学科卒、国際観光振興機構(JNTO)に就職。その間、海外はジュネーブ、ダラス、ソウルに駐在。国内では、90年7月より93年4月まで京都在勤。2004年、JNTO退職。現在はフリーランスライター。訳書に「ロールス・ロイス」(産業能率短大出版部)、著書に「風雪の歌人」(講談社出版サービスセンター)、『争いのなき国と国なれ』(英治出版)、『韓国の観光カリスマ』(交通新聞社)、『釜山港物語』(社会評論社)、『命のビザ、遙かなる旅路』(交通新聞社)。

懇親会アトラクション

コーラスグループ「サラダ」による合唱

24年度総会報告

平成24年度の総会が、去る10月13日出席者約150名を迎えて上野フレックスホテルにおいて開催され、前月に行われた役員会・理事会の議案が原案通り承認されました。総会に先だって記念講演会では沖森卓也さん(上高22回、立教大学文学部教授)が「漢字で日本語を書き記すということ」という演題で、漢字伝来以前に日本に固有の文字がなかったことや漢字の伝来の時期、漢字を用いて日本語表記で書き記すようになった背景や展開について資料を用いて興味深いお話を語っていただきました。総会終了後の懇親会では、上野高校吹奏楽OB有志による演奏を聴きながら楽しい時間を過ごしました。懇親会の参加者は約100名に上り、昨年同様盛会でした。

平成23年度(平成23年9月1日~平成24年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

1. 収入の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Rows include 前年度繰越金, 入会金, 年会費, 本年度会費, 名簿特別会計繰入, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Rows include 会議費, 諸会議費, 運営費, 事務局人件費, 事務消耗品費, 電気・通信費, 旅費, 渉外・慶弔費, 一般印刷費, 振込手数料, 雑費, 事業費, 助成費, 支部助成費, 学年同窓会援助費, 備品等整備費, 備品費, 図書費, 学校費, 事務補助費, 事業補助費, 庭園整備補助費, 積立金, 積立金, 予備費, 予備費, 小計, 次期繰越金, 合計.

平成24年度(平成24年9月1日~平成25年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

1. 収入の部 (単位:円)

Table with 6 columns: 科目, 本年度予算額A, 前年度予算額B, 前年度決算額C, 対A-B, 対A-C. Rows include 前年度繰越金, 入会金, 年会費, 本年度会費, 特別積立金繰入, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 6 columns: 科目, 本年度予算額A, 前年度予算額B, 前年度決算額C, 対A-B, 対A-C. Rows include 会議費, 諸会議費, 運営費, 事務局人件費, 事務消耗品費, 電気・通信費, 旅費, 渉外・慶弔費, 一般印刷費, 振込手数料, 雑費, 事業費, 助成費, 支部助成費, 学年同窓会援助費, 備品等整備費, 備品費, 図書費, 学校費, 事務補助費, 事業補助費, 庭園整備補助費, 積立金, 積立金, 予備費, 予備費, 小計, 次期繰越金, 合計.

会費納入のお願い

会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本同窓会がご承知の通り、非常に活発な活動を行っております。・同窓会報「白亜」の発行 ・ホームページの運営 ・「再発見集」の後援 ・百周年記念施設の維持管理 ・東京、名古屋、京阪神支部への支援 ・上中会、くればは会、扇の芝会への支援 ・各学年同窓会への支援 ・上野高校への支援 ・同窓会名簿の管理 ・総会の開催 ・H.A.Q.U.Aホールへの支援 などの活動は、全会員にお願いしております。年々会費と毎春の卒業生による新入会員の入会金により運営されています。会費納入に関しまして、以前は約2,800名の会員のご協力を得られていたが、近年、ご協力いただいている会員は2,200名あまりとなつてきております。また、上野高校の1クラス減にもならない来年から入会金も減少いたします。上野高等学校同窓会の経済基盤を強固なものにし、母校への支援、会員への情報サービスの充実、更なる発展のために、今年度も年会費(一口2,000円)の納入につきまして、会員皆さま方のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

「宛名不明会員解消」にご協力を

上野高校同窓会は4万2000名以上の会員により構成されており、会員情報の正確な把握と情報管理は同窓会活動の根幹であると考えています。しかし、年月の経過とともに、転居・ご逝去等により、住所等の情報が同窓会事務局で把握できなくなっているケースが出てきております。ご住所等が事務局で把握できなくなっている会員の方には「白亜」をお届けできません。(学年同窓会開催案内状の宛名情報も幹事様に提供できなくなっています。)このような方について、ご本人あるいはご家族、ご友人の方から同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。また、ご逝去された場合も、同様にお願ひ申し上げます。ご友人(ご家族)に確認の上、情報を管理させていただきます。この取り組みは、会員の基礎情報正確化のためであつて、お知らせいただいた情報をご本人(ご家族)の了解なく「同窓会名簿」に掲載することはありません。ご協力をよろしくお願いいたします。